

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200412		
法人名	株式会社 清華の森		
事業所名	グループホーム 清華の森		
所在地	佐賀県唐津市見借4749番地1		
自己評価作成日	令和5年1月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和5年2月6日	外部評価確定日	令和5年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>事業所は自然豊かな森の中にあり、日差しと静かな環境の中で季節ごとの景色を楽しんでいただくために、外庭散歩等の機会を設けています。入居者さまと楽しく会話する等ホームの明るい雰囲気作りに努め、笑顔が絶えないよう日々努力しています。開所して10年目に入り、高齢化に伴ったケアを個別に検討し、住み慣れた当ホームで楽しく居心地の良い空間で過ごしていただけるよう心がけたり、入居者様本位の理念のもと、自分のペースで穏やかに生活出来る様々な支援を行っています。洗濯物たたみ、お茶の袋詰め等、個別の状態に応じた生活支援を行い、役割を持つことで、意欲の向上や家庭で過ごした生活が継続出来るよう支援しています。急変時には看護職員の応援ができる万全な体制も築いています。スタッフの年齢や経験値が幅広く、様々な意見交換ができる環境にあります。今後もスタッフが学習できる機会を作り、認知症の専門家として力を発揮出来る環境を整えていきたいと思っております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>広域農道沿いにある広大な敷地にグループホーム2棟と中庭を囲む形で障害者施設も併設して建っている。施設間で消防訓練等いろんな場面で協力し合い、グループホーム夜勤の際は併設するグループホーム職員と助け合う事が出来非常に心強く感じられている。近隣に民家少なくコロナ禍でもあり地域住民と触れ合う機会は少ない。自然豊かな広い敷地を散策したり、車窓ドライブを行う等入居者にとって少しでも楽しい時間を提供出来る様工夫しながら支援している。食事メニューは決まっていないが担当職員が冷蔵庫にある食材で上手に調理しており食べるのが楽しい施設である。職員は基本理念を元に認知症の専門家として入居者や家族の思いを大切にされた支援を心掛けている。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に事業所の理念を提示している。常に職員が認識し実践出来るよう心掛けている。	理念は10年前の開業当初に創られ玄関に掲示してある。毎日職員で唱和する事で職員の意識付けとなり入居者に対する関わりの中に施設理念が窺え家庭的な生活を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により思うように活動できていないのが現状である。日常的な挨拶や会話を大切にし、地域との関係が途絶えないように心がけている。	地域に加入し区費も納入している。地域の行事連絡等あっているが現在はコロナ禍の為除草作業や祭り等参加出来ていない。以前のように地域の行事に参加したり施設の夏祭り等に参加して頂き交流を図りたい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、地域の方に認知症について話し理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じてグループホームの実態を知って頂き、地域の方からアドバイスや支援をして頂いている。コロナの影響で会議を開催できない時は、議事録を作成し送付している。	会議開催時の運営推進委員の参加状況も良く、活発な意見交換がなされている。コロナ禍の為会議が開催されない時には委員より意見を聞いて議事録を送付する等サービス向上に活かされている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	身体拘束廃止についての取り組みに助言を頂いたり、事故報告、運営推進会議報告、居室の空き状況報告などを日常的に行っている。	市役所担当職員は運営推進委員でもあり顔なじみの関係が出来ており分からない事があれば気軽に相談出来る間柄である。事業所の現在の状況や居室の空き状況等報告を行いアドバイスを頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守りを徹底する事で、安心安全な介護サービスを行っている。定期的な勉強会を通して身体拘束について学びながら実践している。	オンラインにより外部研修に参加した職員が研修資料を基に職員勉強会で発表を行い身体拘束についての内容を確認している。言葉の拘束についても本人が気付いたり、職員間で注意し合える等自覚が出来ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止や身体拘束の研修を行い、常に全職員が意識を持って注意・観察し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中に制限対象者となる方はいない。事業所として積極的に学ぶ機会を持ちたいと思っているが、現在コロナ禍のため施設外研修は中止となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書等に沿って説明を行っている。ここでの生活の様子を説明し、疑問や質問に答え、十分に理解・納得して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在コロナ禍のため面会を制限しており、利用者様の様子をお伝えする連絡や、可能な事は職員内でケアへの反映に努めている。	家族へ入居者の日頃の状況を電話連絡しており、些細な気づき等何でも言える雰囲気づくりを行っている。コロナ禍の為面会が制限されているが状況を見ながら窓越しの面会や距離を置いての面会を行う等家族の希望に沿って支援している。以前は家族会を行っていたが今年度も実施出来ていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月10日に職員会議・勉強会を行っている。その際に職員の要望や意見を話し合っている。提案を活かしながら運営に反映している。	施設長や管理者は日頃から業務に入っており職員とは何でも言える関係が出来ている。職員の希望に応じて職務時間を変更したり職員が働きやすい環境である。施設長が職員の力バに入っている為、急な休みの時も対応できている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の要望や思いを聞き、職場環境などの問題点を把握し、業務の見直しを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全員が研修を受講できるよう配慮している。受講後報告書を作成し、全体会議で他職員に共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や県が募集している研修を受け、研修の内容を事業所内研修へと繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の傾聴、前サービスの情報提供、ケアマネージャーからの情報をもとに、安心して生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族様の現状について話し合い、他にサービスが必要な時は安心して生活出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様の現状について話し合い、他にサービスが必要な時はすぐに対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の個性を活かし、本人様ができる事・できない事を理解し、皆で協力しながら行っている。 洗濯物をたたむことができる方は、いつも綺麗にたたんでくださるので、互いに「ありがとう」と言える環境を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、お便り、報告書で近況を報告している。要望を聞いたり、窓越しで面会を行ったり、日々の生活をカメラで撮ってお便りに添付して様子を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	過去の話に耳を傾け、大切にしてきた人や場所を把握したり、コロナ禍のため面会は行えてないが大切な家族との繋がりが途切れないよう、お便りや報告書などで連絡している。	入居者の生活歴や馴染みの場所等を把握し関係性を継続したいが、現在は困難な状況である。これから施設内で馴染みの関係を築く為職員一同で全入居者とコミュニケーションを図り馴染みの関係性を造っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できることを共有し、孤立せず支え合う。共同での作業やレクリエーション等でコミュニケーションをとっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話や病院への見舞い、ケアマネージャーを通しての継続的な関わりを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常での利用者様の会話や、表情・行動を家族様に伝え共有し希望に沿えるよう努めている。入居時に本人様の趣味やしたい事を伺い、日頃の支援に活かしている。思いを引き出せるよう個々にあったケアを心がけている。	職員はそれぞれ担当が決められており本人の生活状況や思いを汲み取るよう心掛けている。担当者は一緒に衣替えを行ったり必要時は家族へ連絡して補充して頂く等生活全般に気を配り本人の思いを汲み取る様、心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様・本人様の話から、個々の生活歴や暮らしぶりを共に過ごす中でいろいろ話していただき、さらに細かな生活歴を知ることができる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を記録に残し状態の変化が分かるようにしている。毎朝の申し送りで当日の勤務者に申し送っている。毎月の職員会議で利用者様の変化について話し合う。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の日々の生活、意向や家族様の要望、職員からの情報を考慮しながら介護計画を作成している。モニタリングは1ヶ月毎に見直ししている。	介護支援専門員が本人の状況確認や職員より聞き取りを行った上で家族へ意向を確認しケアプランを作成している。ケアプラン内容は詳細に作られており、計画に沿った介護が実行が出来ているかチェックしている。本人にとって1番大切な内容をケアプランに挙げる方が望ましい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録に状態変化を記録している。介護計画のモニタリングに反映し、見直しが必要かどうか検討する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、家族様の要望に応じた支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年はコロナ対策によりボランティアの受け入れや地域の催しなどの参加を中止している。地域資源の活用もまだまだ不十分である。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、家族様の意向を尊重しながら、入居前からの医療機関の受診などを支援している。月に2回主治医往診あり。	入居契約時緊急時の対応等十分説明しながら施設医師への変更を依頼している。2週に1回主治医の往診があり病状や健康状態等を把握している。転倒や熱発等の際は施設看護師へ連絡し主治医へ報告、主治医の判断により受診、救急搬送になる事もある。他科受診が必要な際は職員付き添いにて受診し家族へ報告している。家族は医療支援について安心している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と常に連絡を密に図り報告している。体調の変化、急変時にはすぐに連絡し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、看護介護サマリーで情報を提供している。現在コロナ禍で訪問できない為、電話にて状態把握に努めている。退院に向けて病院と情報を共有し連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応や、終末期に関する指針を説明し同意を得ている。また早めの段階から家族様の意向を聞いている。主治医とも情報を共有し、相談しながら取り組んでいる。	看取りの実績はある。コロナ禍の為家族が入院を希望されず、施設での最期を希望され遠方より来られていた。家族は施設での看取りだった事で本人に会う事が出来、非常に喜ばれた。職員にとって看取りは精神的に負担になるかもしれないが、今後も勉強を重ね家族の希望に添える支援を行っていくつもりである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時のマニュアルを作成。事故発生時の対応については看護職員の指導のもと行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練や防災訓練を行っているが、コロナ禍のため消防署や消防団立会いの訓練はしていない。避難経路や緊急時の連絡網は、職員会議などで周知徹底している。また警備会社とも契約をしており、異常時はすぐに駆けつけ対応して頂くようになっている。災害に備えて非常食の保管や災害グッズも準備している。	コロナ禍で消防署や消防団立ち合いの訓練は行っていないが、併設施設と共同訓練を行っている。実施記録についても写真を添付し次回の訓練につなげている。昨年の台風の際2日間停電を経験した事で非常食、非常飲水が非常に役に立った事や明かりのない中での支援方法等学ぶ事が多くあった。災害に供えて懐中電灯の準備や飲水、非常食を完備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの育てて来られた環境や人生観を考慮し、職員間での情報を共有している。相手の尊厳を保持し対応をしているつもりだが、それゆえに自分達もコミュニケーション能力を向上しなければいけないと思う。	入居者それぞれ育ってきた環境も性格等も違う為一人一人の思いを感じ取り声かけや寄り添いを行って行ける様職員間で情報を共有している。プライバシーの保護として排泄の声かけや入浴時の支援等年齢を重ねても羞恥心に気を付けて支援する。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の自然な関わりの中で、入浴などの1対1で同じ時間を過ごす時に、ぼろっと本音話されることがあるため、傾聴し出来るだけ希望に沿った支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	QOLの向上を目指しながら、その人らしい生活を継続できるようケアプランに沿って個別支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理容にて、清潔さと本人様の希望を取り入れカットして頂く。訪問理容以外でも毎日の整容を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何を食べたいかなどを聞きだし、各自の好き嫌いを考えた食事を提供している。職員と一緒に調理のお手伝いをして頂きたいが、健康や精神状態を考慮し、テーブル拭きやお茶を袋に詰めて頂く作業をお願いしている。また食事形態も個々に合わせて変えている。	担当職員が冷蔵庫にある食材でメニュー記録内容を確認しながら重複しない様上手に調理している。行事食として誕生日は本人に食べたい物を尋ねたり季節ごとの行事食も調理担当者が工夫しながら提供している。入居者にとって「食べる事」が楽しみになる様な施設である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量をチェック表にて把握し調整。また嚥下状態に合わせた食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	見守りが必要な方や、口腔ケア手順の言葉掛け介助が必要な方への支援をし清潔さを保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表の記入で状態を把握し、自尊心を傷つけない声掛けと誘導にて支援を行っている。また入浴日以外の陰部洗浄も行っており、清潔保持に努めている。	排泄チェック表によりそれぞれの排泄間隔を把握し上手に誘導・排泄を支援している。なるべくトイレでの排泄を心掛けパット使用量減少にも心掛けている。排泄物品は施設で購入し使用料金を次回請求時に同封している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にヨーグルトを提供したり、飲み物を促して水分量に気を付けている。また毎日かかさず適度な運動やリハビリ体操も行っている。便秘状態を看護師に報告し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回入浴日があり、曜日や時間は決まっているが、健康状態や本人様の希望に合わせて、その都度日時を変更し対応している。また個々に合わせ機械風呂も使用している。	職員二人介助により週3回入浴出来る環境を整えている。入浴を嫌がられる方もいるが職員が交代しながら上手に声かけし入った後は入浴を喜ばれている。特浴も備えてあり本人も職員も安全に安心して入浴を支援する事が出来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様のペースに合わせて夜間安心して眠れるよう、処方された眠前薬を服用して頂いたり、ゆっくり休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間の情報共有で、看護師からの指示などは連絡ノートを活用したり、個人のカルテを確認したりと細心の注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の趣味や特技など、それに必要である買い物や気候などを考慮し、散歩やドライブ、行事のイベントなどの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため自由に外出できないが、感染対策をしっかり行い少人数でドライブに行くなど、出来る範囲で外出支援を行っている。	コロナ禍の為一人一人の希望に沿って外出支援をするのは困難な状況だが、天候を見ながら庭でお茶を提供したり、桜の頃には車窓ドライブに出かける等気分転換を図っている。施設の広い敷地には自然が多く色々な木が植えてあり秋に栗拾いに出掛け喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方には、家族様と相談し所持して頂いている。買い物購入の際は、自身の財布より支払われる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも家族様や友人に電話出来るようにしている。手紙や書類等は郵送支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除はもちろん、リビングには皆様が作成されたぬり絵や貼り絵などを展示している。	施設周りには樹木が多数あり自然豊かである。ホールから春には桜の花が、夏になると青葉が茂り、秋には紅葉、冬には雪が舞い散る等毎日食事をしながらくつろぎながら四季を感じる事が出来る。ホール内にも季節の飾りつけがなされ職員との会話にも花が咲いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、窓から外を眺めたりゆっくり寛げるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れたタンスや布団などを使用して頂いている。また家族様の写真を飾られたり、好きな歌を聞かれ楽しまれている。	家族に了解を得て居室入口に入居者の名前が掲示してあり、入居者も自室と理解されている。室内には自宅から筆筒や布団、テレビを持参され家族の写真が飾ってある等落ち着いて過ごされている。持参されているシーツ類は毎週交換を行い、清潔に過ごされる様支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースはなるべくテーブルやいすの間隔を開け、スムーズに移乗動作が出来るよう配慮している。各居室には名前札を下げ分かるように提示している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない